



■ 会長挨拶 平林辰夫君

◆ Four-Way Test

「事業を繁栄に導くための四通りの基準」ならば、当然“Four-Way Tests”と複数形になります。これが単数形なのは事業を繁栄に導くためには、四通りの基準の一つずつクリアすればいいのではなく、四つ纏めたものを一つの基準として、そのすべてをクリアしなければならないことを意味します。

◆ Is it the truth? 真実かどうか

「嘘偽りがないかどうか」という意味です。真実というのは「80%の真実」という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的判断であるのに対し、事実とは有ったか無かったかの二者択一を迫るデジタル的判断ですから、ここでは「事実」という言葉を用いるべきでしょう。

◆ Is it fair to all concerned? みんなに公平か

“fair”は公平ではなく公正と訳すべきです。公平とは平等分配を意味するので、例え贈収賄で得た“unfair”不正な

お金でも平等に分ければそれでよいことになります。

“All concerned”は“All”だけが訳されており、肝心の“concerned”が省略されています。この“concerned”は取引先を指すのは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正かどうか」ということを意味します。

◆ Will it build goodwill and better friendship? 好意と友情を深めるか

“goodwill”は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店の暖簾や取引先を表します。すなわちその商取引が店の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げ、取引先を増やすかどうかを問うものです。

◆ Will it be beneficial to all concerned? みんなのためになるかどうか

“Benefit”は「儲け」そのものを表す言葉です。ただし、売り手だけが儲かったり、また買い手だけが得をしたのでは公正な取引とは言えません。その商取引によってすべての取引先が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。

(出典:ロータリーの源流 RI2680 地区 田中毅 PDG)

■ 理事会報告・幹事報告 小松賢三君

○本日の例会は小松郁俊君卓話「フレイルについて」です。例会終了後理事会があります。

○12月のロータリーレートは1ドル=108円です。

○11月30日(土)にCLIP in すわ連続講演にて助成金目録贈呈が行われ、会長・幹事・立石社会奉仕委員長・五十嵐副委員長・小笠原君が参列しました。

○同日、諏訪湖ロータリークラブ創立35周年式典が開催され会長・幹事で出席しました。

○同日、地区職業奉仕セミナーが開催され田中信彦会員が出席しました。

○今後の予定

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ・ 12月10日(火) 通常例会 年次総会 | ・ 12月24日(火) 指定休日 |
| 平林辰夫会長卓話 | ・ 12月31日(火) 指定休日 |
| ・ 12月17日(火) 家族に感謝クリスマス例会 | |

■ 今月の誕生日 丸山一英君・両角匠一君・五十嵐幹夫君・牛山豊明君

■ 今月の結婚記念日 眞道洋一君・丸山一英君・茅野益実君・小林東君

■ 出席報告・ニコニコBOX 出席 28名(出席率 73.6%)

ニコニコボックス 17名より 37,000円

五十嵐幹夫君「今月誕生日で62になります」



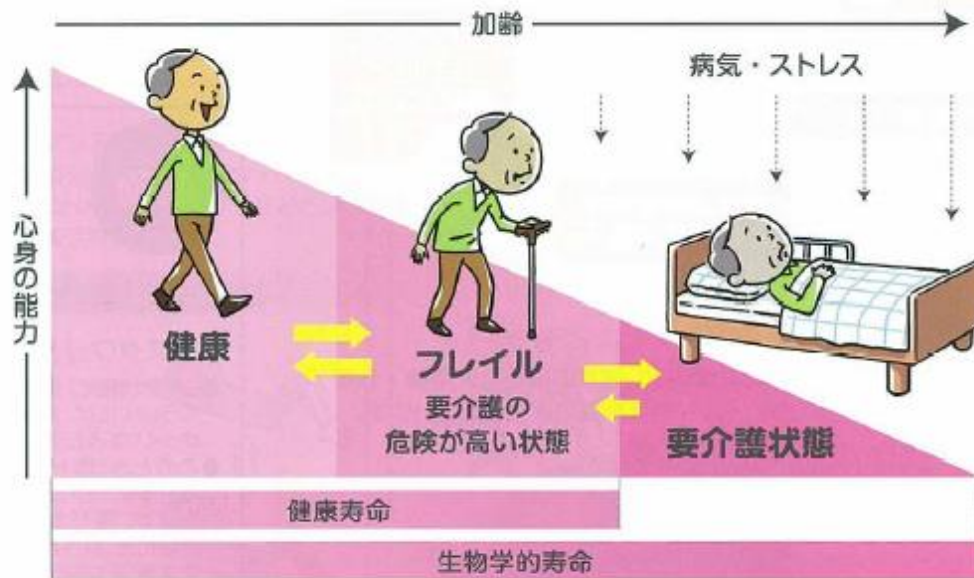
■ 例会プログラム 小松郁俊君 「フレイルについて」

私たちは、みんな歳をとります。病気をしたわけでもないのに、衰えていく。身体も、そして能力も。そして認知症が忍び寄ってきます。そこで、医療や介護に出会います。私に。皆さんに。家族も当惑し、自分も当惑します。誰に言ったいいのか、どこに相談したらいいのか？そこがわからない。「歳ですよ」の一言では納得できない。それが「フレイル」という状態ですよ。その言葉を、待っていると思います。「フレイル」を、私たちは共通認識しておくことが、大切だと思います。人生は、あっという間です。私は、今年72歳になりました。本当に、あっという間でした。80歳の人に聞いても、90歳の人に聞いても、100歳の人に聞いても、人生は、あっという間だったと言います。皆さんは、どうでしょうか？人生のファイナルステージを、どう生きるのか？これは、実に、私自身のことでもあります。

フレイルと言うのは、健康と身体機能障害、つまり要介護との中間の状態です。正確にいうと、「老化に伴う様々な機能の低下により、疾病発症や身体機能障害に対する脆弱性(ぜいじゃく)が増す状態」をフレイルといいます。加齢のより、身体の予備能力が失われていきますが、その状態は、まだもとに戻れる状態でもあります。

「フレイル」とは、健康と要介護の「中間」の状態をいいます。人は誰でも、加齢とともに心身の機能が低下してきます。しかし、それは「もうもとに戻れない」ということでは決してありません。自分の状態について確かな認識をもち、意識して行動することで、再び健康を取り戻すことができるのです。

自分自身ががんばることで健康的な生活を続けていく。「フレイル」とは、そのような意味を含む新しいことばです。



フレイル ということば

「虚弱」という意味の英語frailtyは、これまで「老衰」「衰弱」などとも訳され、「老化だから仕方がない」(不可逆的)といったマイナスのイメージが伴っていました。これに対し、適切な対応によってもとに戻すことができる(可逆的)という前向きな意味をこめて、「フレイル」ということばが、日本老年医学会により提唱されました(2014年)。フレイルが重視されるのは、「予防や回復が可能な状態」だからです。